

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



10月の銅の概況及び11月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセツル	8,500-10,000ドル	↑
建値	98万円-119万円	↑
為替	110~115円	円安

(1か月間TTM)

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると9月の自動車生産台数は前年比-49.7%の39万8,075台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると10月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-30.2%の17万6,743台。

内訳は、乗用車が-32.0%、貨物が-18.2%、バスが+4.4%。

【住宅着工戸数】

9月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比4.3%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比1.2%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は73,178戸。前年同月比4.3%増、7か月連続の増加。

○新設住宅着工床面積は6,012千㎡。前年同月比3.2%増、6か月連続の増加。

○季節調整済年率換算値では845千戸。前月比1.2%減、2か月連続の減少。

【伸銅品生産】

日本伸銅協会が公表した2021年9月伸銅品生産動向速報値によると、9月伸銅品生産量は前月比17.5%増加の6万4,610トン、前年同月比28.7%増加した。またコロナ前2019年同月と比較しても5.3%増加した。好調を継続している。

銅条は、前年比12ヶ月連続のプラス。9月としては、2008年に次ぐ2番目の高い値。引き続き車載、デジタル家電用の半導体向けが好調である。自動車端子向けも、自動車生産挽回に向けて、在庫積み増しの生産が続いている。自動車生産台数以上に自動車端子向け銅条生産が伸びている。

黄銅棒は、1同比8ヶ月連続プラス。2018年の同月実績を僅かに上回った。住宅設備機器関連が緩やかな回復続く。リフォーム関連、タッチレス水洗向け需要好調続く。自動車向け需要も堅調。

【電線】

前年比+0.3%の5万2,100t。内訳は、国内が-0.2%輸出が+17.6%。

【輸出】

電気銅輸出が-42%の4万9,351t。
銅スクラップが-10.5%の2万7,460t。

【輸入】

電気銅が+10%の550t。
スクラップが-4.6%の9,455t。

【見通し】

【自動車】

9月の自動車生産が-49.7%。10月国内販売台数が前年比-30.2%。前月に続く生産、販売共に急減少。半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとの事。今後注視。

【伸銅品生産】

9月伸銅品生産量は前年同月比28.7%増加した。前月に続き増。また、コロナ前2019年同月と比較しても5.3%増加した。好調を継続している。自動車生産の遅れの影響がでないか今後の注目。

【電線】

前年比+0.3%の5万2,100t。内訳は国内が-0.2%輸出が+17.6%。輸出の増加率が大幅増加。国内が回復するか注視。

・銅輸出は電気銅、スクラップ共に内需旺盛に伴い減少。

・銅輸入は電気銅が内需旺盛から増加。スクラップとも世界的な原料不足から減少。

【スクラップ景況予想】

前月に続き流通【一次問屋】在庫は銅建値が104万から一時134万まで急騰した(翌日125万まで下落)ことから出物が無く在庫薄。

需要面に関していまの所、前月に続き中国の部品調達遅れの遅れからの自動車生産の大幅減少傾向があるが挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多く定期で入らないメーカーが高値買いの傾向が今後も続く。

【LME・為替予想】

今月は、①燃料炭価格抑制策の動向、②中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題、に左右される。

①に関しては、中国雲南省全体は電解アルミニウム業界への実施中及び実施予定の優遇電気料金政策を取り消すなど強硬措置を続けており工業用金属の需要減退懸念は引き続き今も行われるのではないかと。

②に関しては、ドル建て債の利払いを行うなど立て直す意思はあるようだが中国国家統計局が発表した10月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.2と市場予想(49.7)に反して前月の49.6から低下した。50を2か月連続で下回った事などから予断はゆるさぬ状況。

これらを踏まえた11月の銅価格は8,500-10,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は、110円~115円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては、98万-119万円程度と予測している。

(「10月の銅の概況及び11月の見通し」おわり)